

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年7月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0770700375		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	〒962-0822 福島県須賀川市東作2-2-8 (電話) 0248-73-5678		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年6月11日	評価確定日	平成19年8月2日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年4月1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	19人	常勤 18人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	3,000~9,000(11~4月)円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田記念病院、寿泉堂松南病院、矢吹医院、小松歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特定非営利活動法人が設置・運営しており、グループホーム、居宅介護支援事業所、デイサービス、ホームヘルプサービス、介護保険対象外の一時宿泊など、自宅と通いと住まいの三つの要素を取り入れたサービスを提供している。開設5年経過のグループホームは、自然環境に恵まれた高台のなだらかな斜面に建てられた木造平屋建てが2棟並んでおり、一見一般住宅のような親しみが感じられた。利用者の方たちは、ホーム周辺の畑で野菜の手入れをしたり、草むしりをしたりして、自宅のように愛着をもって作業に当たっている。法人の理事長でもある管理者は、家庭的な環境の中でその人らしい生活ができるよう職員と共に真摯に取り組んでおり、利用者の表情も明るく、利用者と職員との見分けがつかないような微笑ましい光景が見られた。地域密着型サービスを提供する事業所としての環境が整っていることから、基本理念に明記し、地域との交流を深めながら地域の中でその人らしく生活できるケアに取り組まれることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義については職員全員が理解し前回の評価での留意点については、会議等で十分議論をしながら具体的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 地域の代表や地域包括支援センター、利用者の家族会の代表による運営推進会議では、利用者の生活状況や活動状況を説明し理解を得ると共に認知症になっても地域で安心して暮らせるまちづくりを提唱するなど積極的に推進会議を活用していることが議事録からうかがわれた。今後は、外部評価の結果について説明し、第三者の意見を参考にしながら利用者支援に活かされるよう期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月定期的に利用者の家族に生活状況や健康状態を職員が添え書きをし送付している。事業所が発行している「すずらん新聞」には個人情報保護に配慮しホーム行事やレクリエーションの写真等も併せて送付するなどきめ細かに対応している。ただ、家族がホームに対し安心しきって面会の回数が減少する傾向が見られるとのことで誘導策を検討しているようである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議のメンバーに町内会長も地域の代表として参加していることから、地域の行事や地域情報等の把握を行なっている。ホームからも地域の一人として情報を提供したり、地域で行なわれたカラオケ大会や公民館主催の大正琴発表会などに参加し交流を深めており、認知症になっても地域との連携によりその人らしく暮らせることを立証している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の表示を見ると、従来からの理念を踏襲している。家庭的な環境の中で尊厳を大切に、自立した生活を支援することは重要であるが、地域密着型サービスとして求められることは、地域の関係性を表示することである。従って地域との交流や住民とのかかわりなどの視点に立った表現を用いたものが望ましい。	○	管理者はじめ職員全員が地域密着型サービスの役割を理解しているため、地域住民との交流の下で、その人らしく暮らせることを支援する独自の理念を職員全員で検討し、現状にあったように作りかえることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を作成しているため、意識づけは十分なされている。職員はその具現化に向けて日々努力し、支援しているため、利用者の表情にもゆったりと落ち着いていて、しかも明るい表情が見受けられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーである町内会長を通して今年4月に町内会に加入した。地域の行事や地域活動の情報を集め、カラオケ大会や公民館主催の大正琴発表会などに参加し交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性について職員全員で理解しており、前回の評価を踏まえて、利用者の栄養量の把握や、ケアプランのモニタリングについて具体的に改善し取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録では、グループホームの概要、年間行事報告や地域の情報把握等双方の情報交換をしたり研修内容を伝達し、運営推進会議のメンバーとの情報共有を図っていることが記載されている。また、外部評価についても目的や経過を説明し、理解を深めており今後は会議のメンバーからの意見を求めながらサービスの向上に努めることとしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の近況や経費の明細などきめ細かい報告を行い、主な介護者のみでなく、世帯を別にしている子供などには「すずらん新聞」を送って理解と協力を得ている。また、メディアによる取材時には家族に確認し、対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問する家族に対しては気軽に話ができる雰囲気づくりや運営推進会議でも家族会の代表が自由に話せるよう配慮している。入居して数年になる利用者については、家族の生活の変化や都合で面会が疎遠になっているケースも見られるが、利用者が落ち込まないように毎日のケアの中で支援したり、家族に対する誘導策を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時に採用された職員の離職は少ない。同じ敷地内で平屋建ての2ユニットを行き来できるようになっているため、ユニット間の人事異動ではお互いにカバーしあって、利用者が慣れるまで混乱しないように配慮している。また、新規採用者にはボランティアとして事前に来てもらい、利用者に馴染んでもらうような工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修体制は整備されている。特に、グループホーム連絡協議会の研修を中心に受講の機会を与え職員の資質の向上を図っている。新任者研修もカリキュラムにより実施し、職員が講師や推進役となり、働きながらのトレーニングを積極的に行なっている。また、職員から外部研修の希望があった場合は、勤務体制を考慮して、できるだけ参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加し、研修を通じて情報交換や交流を行っている。また、市内に5つあるグループホームのうち4つのグループホームが連絡協議会の会員であるので、日常的に情報交換の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の経験を尊重し、裁縫や衣類のリフォーム、畑仕事などを教えてもらったりしており仲良しの祖父母と孫のような温かい関係が見られ、共に支えあいの関係を築いているのが見受けられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部参考にしながら本人や家族から希望や意向を十分聴取し、暮らし方の情報を把握し、生活援助計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や状態像を把握し、本人の望ましい生活像を長期目標に掲げ、そのための短期目標に向けての課題や解決するための具体的な計画内容を記録し、その結果を評価している。定期的にカンファレンスを行い、実施記録には、利用者の顔の表情をスケッチし変化が一目でわかるような独自の記載方法を取り入れるなどしており、職員全員で計画内容を把握している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や変化に対する計画の見直しを行っており、家族にも説明し確認を得ている。また、毎日の業務日誌の中で細かくモニタリングを行っており、随時、状況変化に対する見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。家族の受診支援ができない場合は職員が介助し、医師からの指示や専門的な質問に対応するなどして医療機関との信頼関係を持ちながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化対応や終末期の看取りについて職員全員が把握しており、重度化・看取りに関する指針も作成している。終末期の生活支援に関する覚書を家族と取り交わしている。管理者が看護師であり、医療連携加算体制が整備されているので、入居の際に重要事項説明書等に重度化した場合の対応等を記載・説明し同意を得ることが望ましい。	○	重要事項説明書中、ホーム利用対象者は、概ね身の自立が可能な方を対象とし、またパンフレットにも初期から中期の認知症の方を対象とした記載になっている。しかし、医療連携体制の整備がなされていることから、重要事項説明書やパンフレット等には重度化した場合の対応等も明記し、重要事項説明書では、家族等に対する事前の説明や同意を得ることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として利用者に接し、尊厳を基本にした言動に心がけている。個人情報保護の徹底についても職員が理解し秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を活用しながら暮らし方の情報を把握し、利用者のペースを尊重しながら支援している。晩酌を楽しむ方もおり、職員も水で乾杯しながら、さりげなくお付き合いをしているとのこと。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が植えたホームの畑の野菜等を食材に取り入れ、調理の準備や後片付けなど職員と一緒にいき食事一日の大切な活動として取り入れている。職員も利用者のペースに合わせ、支援しながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向にそった入浴支援に努めている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	農作業、調理、和裁、絵画、大工仕事等利用者の得意とする分野を十分把握しており、それぞれの役割や場面づくりを設定し、活かすような取り組みに配慮している。職員は利用者から衣類のリフォームを習い感謝の意を表している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的な外出は積極的に行っている。近くのスーパーに買い物に出かけたり散歩をするなど利用者の希望にそった外出の支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵はかけていない。職員は見守りながら一緒についていくなど利用者の自由な行動を尊重しながら、安全面での配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に災害訓練を実施しており、定期的訓練計画と実施記録も確認された。法人内の協力体制や警察署、消防署の協力体制も整っており、消防署の立会いの下に消火器の取り扱いの訓練を行なっている。食料品（カロリーメイト、ビスケット、水、等）の備蓄も準備されてある。今後は地域住民の協力を得よう働きかけていくこととしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各自の身体状況や嗜好を観察し、栄養バランスをみながら支援している。チェック表に水分や食事量を記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内は建物を囲むように、畑、花壇がレイアウトされ、住宅地の中に溶け込んでいる。玄関や通路にも季節を取り入れたしつらえがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれの好みの家具が配置され、仏壇もごく当たり前に置かれている。夫婦室はコネクティングルームで、仕切りのドアを開け放ち、常にお互いの存在を確認できるようになっているので、夫の精神的安定に繋がっているとのこと。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームすずらん

記入担当者名 今野 秀吉

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。